midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

７月号の１枚：地球環境部、力を合わせて材を引く

２０年目を迎える、ＮＰＯ法人緑のダム北相模

総会直前、14期の活動

相模湖・貝沢の荒廃した森に気付づいて、一体これは何なんだろうとWWＦ日本委員会の前沢英士さんに聞きに行ったのが１９９８年５月７日であった。「気付いた者が始めれば良い」と言われて早、２０年が経過する。２０年間「継続は力」、それなりの規模と成果になっているが未だ、「点か線」の規模に過ぎない。

現在の活動状況は・・・、
１、後継者育成、「知足の森」
若者が先端技術を取り入れ大いに気をはいている。若者の柔軟で純粋・自由な発想には驚かされる。GPS、GISを取入れて正確な森林簿を作製し次なる森林整備計画の基礎資料に役立てようとしている。

２、新たな挑戦；「富士流域（桂川相模川）サプライチェーンモデル構想」

富士源流山中湖～下流都市部横浜を繋ぐ流域材の流通システムつくり。これは、いささか大仕事で、一ＮＰＯの手に負えそうにない案件ですが「森林・林業の復権」の為に敢えて「火中の栗」を拾うと言う事です。富士源流である山中湖・富士吉田市・河口湖町から上流の都留市・大月市・上野原市、そして中流の相模原市（緑区・中央区・南区）、さいごは下流都市部の湘南海岸都市・川崎市・横浜市へと流域材を繋ぐ、という取り組みです。

「若者の森づくり」を原点に「富士流域（桂川相模川）サプライチェーンモデル構築」に繋ぎこれらをモデルに全国の各流域の特性に合ったシステムを考案して「森林・林業の復権」に向けて発信しようと言う事です。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2016.07

7月 3日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上
知足の森/若者の森づくり
いずれも弁当持参。参加費：４００円
7月17日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森・知足の森

6月5日（第一日曜日）

今月の定例活動では、ForestNovaのOB, OGが小原本陣の森で活動を開始しました（写真左２枚）。一方、地球環境部の中高生はその裏にあたる長福寺・知足の森で測量を行いました（写真右２枚）。各々のご報告をします。

私たちForestNovaのOB、OG会は、5月29日に今後活動することとなるフィールドをご案内いただき、6月5日にはそこで間伐する木の選木を行いました。

5月29日は長福寺の近くにある永井広紀さん・永井忠男さんの森と、小原にある森の二箇所をご案内していただきました。
まずは永井広紀さん・永井忠男さんの森で活動していくこととし、どのような整備をご希望なのかご意見を伺いました。

今回はは前述のご意見を基に、景観間伐を意識して林縁や林内の劣勢木・欠頂木をメインに選木を行いました。また、道路に掛かっている大きなカラスザンショウの処理についても検討を行っています。今後は選木した木の伐倒、下草の処理、枝打ち、カラスザンショウの処理を行い、林縁にある道路から綺麗に見えるよう整備を行います。

整備中、永井さんにご確認いただける機会もあるということなので、都度コンセンサスをしっかり取りながら活動していきたいと思います。

ここでの活動が私たちＯＢ会の初仕事となります。私たちのメンバーには現役で林業に就いている者もおり、作業そのものは問題無く行うことができるかと思われます。ただ、メンバーそれぞれが社会人として違った経験をし、違った考え方を身に付けてきています。ここでの活動を通して、多様な考え方が相乗効果を発揮できるよう再びメンバーのベクトルを合わせ、整備を完了させるだけではなく今後の活動への弾みにしていきたいと思います。

とはいえ、至らぬところ多々ございますのでまだまだご迷惑お掛けするかと思います、今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願いします。

加藤 浩晃（ForestNova OB,OG）

• • • • • • • • • • • •

知足の森では、これまでの調査をもとに、スギヒノキが植わっている区画の境界線を探す活動を行いました。まず前回までに打った杭を探しそこから測量を開始しました。初めてポケットコンパスにさわる中学生も多く、簡単な原理を説明し、実際に測量をしてみました。知足の森では地主の住職さんからお預かりしている手書きと思われる地図、さらにそれをもとに作られているだろう公図、さらに森林組合の施業図などをもとに、ArcGISやGoogleEarthでおおまかな境界線を割り出しています。今回はそれをもとに、実際に方位、斜度、距離を測り、その場で水平上の値に変換し、そこに杭を打つという作業を行いました。実際に森を歩くと、次の地点までに大きな倒木があったり、急斜面過ぎて、杭と杭の間が数mしかないという効率の悪い区画もあり、地図上ではわずかな距離にも関わらずかなりの手間がかかりました。生徒の感想も「訳もわからず始めたが、自分がポールを持っているときは早く位置を決めろ、と思ったが、実際に自分がコンパスをのぞくとそうはいかず、ポール側で待っているときに視界を確保するために雑木を切っておくなどの気を使わなければならない」など実際に作業してみなければ分からない感想が書かれており、実際に活動することの重要性を再認識しました。

午前中で区画の南側がほぼ確定したので、午後は東側の境界線に取りかかりました。まずは２つの区画の「角」にあたる地点を取ろうと何回か測量すると、その地点と思われる位置が作業道らしい獣道のまさに真ん中で中高生たちからも歓声があがっていました。そのまま北側の尾根までGPSをもってあがりましたので、この境界線もほぼ確定しています。しかし、そのなかで３０年ほど前の看板を中学生が発見しました。区画の形がこれまでの資料のいずれとも異なっており、、、新しい課題というお土産つきで無事に作業を終えました。

宮村　連理（本会、副代表理事）

[定例活動]相模湖嵐山の森

6月19日（第三日曜日）

梅雨に入っての活動日。野の花こそ少ないが、天気には恵まれた。参加４６名。

今日はフォレストノバOBの滝沢さん、二藤さんたちが加わった。彼らの作業現場はここ嵐山から少し離れた小原の永井勲、忠男さんご兄弟の所有する森となるが、終礼にはまた駆けつけてくれるそうである。

お花畑班はこの季節は毎年のこと生い茂る雑草との戦いに明け暮れることになる。手でむしったり、刈り払い機で一掃したり。それでも、雑草たちの生命力はすさまじく、作業は秋まで続くことになるだろう（写真上から三番目）。だが、うれしいこともある。５月に播いたヤーコンやつるなしインゲンが元気に葉を広げているではないか。ヤーコンはともかくインゲンは来月には収穫できそう。ラズベリーも赤紫色の実をつけていたが、こちらは量が少ないため、食べることのできたのはお花畑班のメンバーのみ。ちょっと残念。来年に期待しよう。

森林整備班は水源地近くの倒木処理。木工班は柱のほぞの刻み作業（写真上から二番目）。生命の森宣言東京は８月に予定されている森林体験イベントのための経路整備。

一方、フォレストノバは先月アナグマに倒されたスギの切り株の処理に取り掛かる（写真一番上）。が、ひと月経ったとはいえ、根はまだ地中深くにくいこんだままでなかなか抜けない。この作業に半日を費やした。樹木の逞しさを改めて実感した次第である。

お昼にはいつものかどや特製スープが待っていた（写真上から五番目）。野菜たっぷり。中の具はトマト、マメ、タマネギ、ジャガイモ、ズッキーニ、それに短く刻んだパスタなど。これをミネストローネというのだろうか。この季節にはぴったりの、疲れのとれるさわやかな味に満足。と、ここで桜井先生のお孫さんである省吾君がお父さんと一緒に到着。狙いはもちろん昨夏に引き続いての昆虫採集。さて、成果はどうなるか。

昼食後、地球環境部は寺跡の上部で午前に引き続き間伐と材運び、皮むき作業に取り組む（写真上から四番目）。森林整備班のベテランたちがサポートしてくれているので心強い。その現場にクモキリソウという珍しいランを数株発見した。長く嵐山に通っている私だが、ここで見たのは初めて。おそらく過去のデータにも記載されていないだろう。決して華やかなランではないが、貴重ではある。大事に見守りたい。

さて、省吾君が捕まえたのはコバネヒメギス（雌）一匹のみ。ちょっと寂しそう。だが、基地でセンチコガネを見つけてようやく満足の様子。代わりにヒメギスは放してあげることに。

終礼時、小原で活動していたノバOBたちが戻ってきた。１０本ほどのスギの枝打ちを完了したとのこと。プロも混じっているだけに森は見違えるほど美しくなったようだ。後で永井さんご兄弟に仕事後の写真を送付する予定。大学を卒業してもなお嵐山に足を運んで来てくれる若者たちの心意気が何よりうれしく、頼もしい。彼らのような存在を支えていくのが私たちの役割だと思う。その後の総会、懇親会での語らいも和やかな雰囲気の中に各メンバーの思いが熱く伝わってくるものであった。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
通常総会を行いました

6月29日午後4時から相模湖交流センター２Ｆ研修室にて開催された。内野郁夫理事が理事会から議長に推薦され承認された。

第１号議案、第14期(平成27年度／2016年度)事業が各担当者から以下の項目に沿って報告された。

【1】森をつくる

(1)「相模湖・嵐山の森」(川田理事)。長谷川大工の指導、伝統工法による乾燥小屋の完成目標について(2)「小原本陣の森」(川田理事)。今後のハイキングコース整備について(3)「知足の森」(宮村理事)。今年から長福寺の森林の整備を開始。(4)FSC認証(宮村理事)。2015年をもって取得継続を終了した。10年間の成果を基にFSCの原則に沿った活動を今後目指していく。

【2】森をつなぐ

(1)「富士流域(桂川相模川)サプライチェーン」(石村代表理事)。富士山を源流として上流・中流・下流と横浜市までの140kを繋ぐ富士ブランドの計画(2)「相模原市民若葉まつり」(川田理事)入場者は6000人程で若葉祭りとして行われた。(3)「月次ニュースレター」(宮村理事)積極的に執筆参加してほしい。(4)「第14期　定例活動参加者数」(石村代表理事)。特に中高大学生の若者の参加が増えた(5)「緑のダム体験学校」(川田理事)フォレストキッズスクールとして、相模原環境情報センター、全国インストラクター神奈川会、自由クラブなどと協働して8月に参加小学生25人で実施(6)「本陣祭り」(釜谷会員)。11月3日にＦorest　Novaが恒例の大行列に参加協力し、またブース出展も行った。

【3】森をいかす

(1)「森の積み木」事業(宮村理事)。今年からエコナノクラブも参加・協力してイベント開催。(2)関連団体として以下の様な活動報告があった。[1]一般社団法人さがみ湖 森・モノづくり研究所(丸茂)。2015年にさがみ湖　森・モノづくり研究所を設立。相模原市のパートナーシップ事業で「商品開発事業」を3年間実施。2017年事業継続のため、一般社団法人に法人化。27年度環境省「協働取組み加速化事業」で千木良小学校に自社で設置した都留の製材所・藤野の集成材加工所で制作したコナラの天板を80枚設置。[2]Forest Info、林業サプライチェーン研究所(WBJ)(小林会員)。Forest Infoは3Dスキャナによる林内計測を行い、搬出までの林内のデータの利用価値を高めていく。昨年は秩父森林組合と契約、実施。購入者に信頼されるトレーサビリティシステムを構築していくため、今年からウッドバンクジャパン(WBJ)という組織にし、サプライチェーンの構築に取り組む予定。1号議案の採決が図られ、満場一致で承認された。

第2号議案、14期(平成27年度)決算報告にうつり、石村代表理事から以下の様な説明があった。収入の部は約411万3千円で対前年度比93%、支出の事業費は298万3千円で72%と支出は大幅に削減された。つづいて監査報告として、小林照夫監事から収支状況、財産状況を正しく示しているとの報告で、2号議案も満場一致で承認。

第３号議案、第15期(平成28年度/2016年度))事業計画(案)【1】森をつくる、若者の森づくり(宮村理事)。森をつくる、森をつなぐ、森をいかすをベースに若者が毎回同じ森に来るような自主的な活動をPRしていきたい。【2】森をつなぐ(1)石村代表理事。富士吉田市、大月市の上流での流域協議会によるシンポジウムを予定(2)一般社団法人さがみ湖　森・モノづくり研究所は代表理事の淵上会員から、製材所と集成材工場を本格稼働させるため、専門の技術者を拡充し新規体制で床材等の商品づくりを開始。木材搬出の仮設集材機による見学会も実施し、林業業者の木材搬出をサポートし供給体制を強化していく予定。(3)林業サプライチェーン研究所(WBJ)(4)Forest Info(小林会員)。ウッドバンクジャパンを株式にして、事業活動として始動していく。工務店がネットで購入できるシステムを考案する。

第４号議案、第15期予算(案)は石村氏から事業予算は約443万円、支出の部としては330万円と報告があり承認された。

第５号議案、役員人事(案)が提案され、承認された。

代表理事・統括・石村黄仁
副代表理事・小原本陣の森・木工班・川田浩
副代表理事・知足の森・地球環境部・実務・宮村連理
理事・広報啓発・お花畑班・丸茂喬
理事・相模湖嵐山の森・環境学習・内野郁夫
理事・嵐山の森地権者・鈴木史比古
理事(再)・小原本陣の森地権者・永井広紀
理事(新)・森をつなぐ・都市部担当・兼松まゆみ
理事(新)・麻布大学講師・学術協定・原田公
理事(新) ・森林整備・小林 照夫
監事・吉田 恒久
監事(新)・川田 晃

第６号議案、定款の変更(案)

定款内容の見直し作業を行い、その内容が承認された。

以上を持って全ての議案が承認され、第15期通常総会は無事に終了した。　丸茂　喬（本会、理事）

[報告２] 総会報告
ワークショップ編

6月19日、緑のダム北相模総会後にワークショップを行いました。内容は、一人ひとりが大切にしている活動動機を一言で表現し、発表していく方法を取りました。そして、ボランティア活動をしていく上で大切な4つポイント（東京ボランティアセンターが提示）である[1]自主性、[2]社会性、[3]開拓性、[4]無償性でグループ化しました。

ねらいは、緑のダムに関わる皆様が何を大切に活動しているかを明らかにして、今後の活動の活性化になればと思い企画しました。

ワークショップを行ってみて、やはり林業の発展や木材の活用などの活動動機としている方もおり、森林解決したいという[3]開拓性が多くなると思っていましたが、強かったのは[1]自主性と[2]社会性でした。

森から学ぶことが多く、身を投じているといった自主性。森に集まる素晴らしい仲間とのつながり、また故郷と表現する方もいて森そのものがコミュニティとなっている社会性。
以上の2点が今の活動を支えてる動機だと感じました。
これからは参加者に対して作業以外にも、「森に集う仲間」「森から学ぶ」といった視点で活動の魅力を伝えていけば緑のダムの輪が広がるのではと思いました。

滝澤　康至（ForestNova OB）

[連載]
相模湖・若者の森づくりから

梅雨明けをしたかと思わせるほど、蒸し暑い季節となりました。6月、嵐山定例活動にForest Nova☆の新しい仲間が2人活動に参加しました。2人とも麻布大学の1年生で獣医学部の服部さんと環境科学部の山口くんです。
この新しい2人を連れて主に1.2年生が集まり活動をしました。今月の嵐山定例活動では、2月の大雨の際に倒れてしまったヒノキの木の処理と初めて嵐山に来てくれた一年生へ、B地点までをメインに紹介しながら散策をしました。今回処理を予定していた倒木は、元々嵐山に棲んでいたアナグマの古巣の上に木が立っていました。雨によって柔らかくなった地面の古巣分のスペースが空いていることによって、木を支えきれなくなって倒れてしまったんじゃないかと考えています。この木は、昨年度に根っこからおよそ2m弱まで玉切り(ある程度の寸法に合わせて木から丸太を切り出すこと)は済んでいました。しかし根っこの部分の土は倒れた衝撃で掘り返され、根っこから2m弱の丸太を切り出そうとしたのですが、木が乾燥してしまいノコギリが思うように進まず、四苦八苦していました。それでも交代しながら切り進め、ようやく玉切りを済ませ、次は根っこの部分です。この記事を書いている私も4年間自然に倒れた木の処理は行ったことはなく、況してや地面が掘り返されてしまった根っこの部分はどうするのが一番良いかわかりませんでした。そういった知識不足の面もあり、Forest Nova☆のメンバーで話し合った結果、根っこの部分は一度地面から切り離し、穴に埋めて自然へと返すことに決まりました。しかしながら先ほどの切り進まない丸太同様、根っこも部分はより一層硬く、地面と接着している分もあり、スコップで下に空間を作り、試行錯誤しながら時間いっぱい使って根っこを切り出すことに成功しました。来月以降は元の部分に穴を掘り、自然にかえる形で根っこを埋めていきたいと思います。

今回、Forest Nova☆の活動の中でもとても珍しい活動だったと思います。初めて来た一年生にとって貴重な経験(？)も出来ましたが、処理の時期が長引いてしまったのも事実としてあり、もう少し柔軟に作業を進められるよう日々考え続けなければならないなと考えさせられた活動になりました。

釜谷　優太（Forest Nova）

[報告３] 上智大ASF 積み木で参加しました

2016年度のASFでは万里の長城を作りました。それは初の試みであり、桜祭りで一度試作を作りましたが、途中で雨が降ったために完成ができませんでした。ですので当日は終えることができるか不安も多々ありましたが、無事に終了した時は達成感を感じると同時に、部員のチームワークの良さに感動しました。

そこでそのチームワークに関してですが、中学一年生から高校三年生まで、さらには学校も異なる生徒達が一丸となれるのは驚くべきことだと思います。そのような”力”があるからこそ、毎回周りをあっと言わせるような作品が出来るのではないでしょうか。

万里の長城は大勢の人々が一致団結をして完成し、現在は世界遺産の１つとなっています。万里の長城のように、私達の活動も多くの仲間が集い、そして一人一人の想いを後世へ積み上げていけたらと思います。

岡田　夏希
（國學院大學久我山高等学校２年）

[事務局より] 今年度会費納入について

今年度の会費の納入をお願いしています。すでに納入されたみなさま、ありがとうございました。編集時での確認と振込タイミングがずれてしまい掲載ができなかった方は来月号以降にご紹介いたします（敬称略させていただきます）。

【会員】石井明男、石原邦雄、石村黄仁、石村鸞子、薄井敬、内野郁夫、岡田陽一、角田なお子、金子紀和、川島正仁、川田晃、川田浩、小林照夫、酒井秀夫、佐藤陽子、白石晴輝、瀧澤道子、辻田彪、永井広紀、原田公、丸茂喬、宮村連理、武藤賢治、森弘子、谷田部興栄、山本忠順、長谷川主水、滝澤康至、

【学生会員】小椋宙、唐澤千年、木村縁、西村蒼平、牧野佑紀、山岸弦、吉澤日向、渡邊優唯、岡田夏希、永井伶、松田剣心

【賛助会員】(株)トレカーサ、北都留森林組合、東海大望星高校

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人 緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１８年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所